

今月の安全運転管理

シートベルト あなたを守る すごいやつ

①全席シートベルト着用をすすめよう

- 「カチッと100!」シートベルト・チャイルドシート着用徹底強化旬間
- シートベルト未着用の危険を周知しよう

②雨天に対応した運転を指導しよう

- スピード抑止と車間距離をとろう



全席シートベルト着用を呼び掛けよう

六月十一日(火)～六月二十日(木)は、「カチッと100!」シートベルト・チャイルドシート着用徹底強化旬間です。事業所でも、この運動に呼応してシートベルト着用を呼び掛けましょう。

愛知県の一般道でのシートベルト着用率は、運転席が九十九・二%、助手席が九十六・八%、後部座席は四十六・五%でした。

道路交通法では、後部座席を含めたすべての座席で、シートベルト着用が義務づけられています。

シートベルトの着用なしで安全な座席はありません。朝礼等の機会に「カチッと100!」を合言葉に全席でのシートベルト着用を呼び掛けましょう。

シートベルト未着用の危険を周知しよう

シートベルト着用を推進するため、シートベルト未着用時の危険を周知しましょう。

たとえば、時速四十キロで正面衝突した場合、体重の三十倍の力で前に飛び出します。体重七十キロの人であれば二・二トンを支える力が必要になります。

また、時速六十キロで衝突した場合は、高さ十四メートル(五階建てビル)の高さから落下したのと同じ衝撃を受けます。

さらに、後部座席でシートベルトを着用せずに交通事故に遭った場合は、事故の衝撃により、前の座席や天井、ドア等にすさまじい力でたたきつけられたり、前席の同乗者に危害を加えたりする危険があります。このほかに

も車外放出されるおそれもあります。

こうしたシートベルト未着用の危険を周知し、出発時には全員がシートベルトを着用しているのを確認してから発進することを指導しましょう。

スピード抑止と車間距離の確保を指導しよう

まもなく梅雨の時期を迎えます。従業員に対して、雨天時の安全運転のポイントを指導しましょう。

濡れた路面は、摩擦係数が低下して、晴れた日と同じ感覚でブレーキを踏んでも、止まることができません。また慌ててブレーキを踏むとスリップする危険があります。

そこで、雨天時は晴天時の二倍程度の車間距離を確保させましょう。